

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	22223004	研究期間	平成22年度～平成26年度
研究課題名	日本の無形資産投資に関する実証研究	研究代表者 (所属・職) (平成27年3月現在)	宮川 努 (学習院大学・経済学部・教授)

【平成25年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○ A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、国の生産性と無形資産投資に関するデータベース構築と理論形成という、日本の長期的経済成長にとって極めて重要な研究領域に正面から取り組む本格研究である。研究体制も、国内外の主要研究者との共同研究、日本の主要大学と経済産業研究所との連携など大きな広がりをもって進められている。途中2011年の東日本大震災という不幸な事情によりアンケート回収が遅れたようであったが、対象の変更拡大などフレキシブルな対応により回収や分析も確実に進み、データセットの構築は一段落したように見える。今後はこうしたデータをベースに無形資産と生産性向上あるいは企業パフォーマンスとの分析などを学術的成果として国内外に発信して行く段階に入ったと考えられるので、一層の進展を望みたい。

【平成27年度 検証結果】

検証結果	
A	<p>当初目標に対し、期待どおりの成果があった。</p> <p>本研究は、我が国における無形資産投資の大きさをマクロ・産業・企業レベルにおいて計測し、それがマクロ・産業における生産性、企業パフォーマンスに与えた影響を分析した、我が国における無形資産の先駆的な研究である。マクロ・産業レベルの無形資産投資データを経済産業研究所のウェブサイトにおいて公表し、我が国における無形資産研究の促進に寄与したことも高く評価できる。</p> <p>マクロ・産業・企業いずれのレベルにおける研究成果も国内外の学会・会議において報告され、学術雑誌や英文著書にも発表されており、国内外への情報発信も十分に行われている。</p>